



だより

第587号 2025年5月

藤井寺市立道明寺小学校

こころ 心の^{どう}お^に道^{ばこ}具^{ばこ}箱

校長 吉松 崇



「身長が伸びた!」「体重が増えた!」「走るのが速くなった」、自分の体や体の成長は、鏡や記録を通して、自分の目で見ることができます。でも世の中には、目で見えないものもたくさんありますね。「心はどうですか?」…自分の心や、心の成長は、目で見ることにはできません。

でも、その人の言葉や行動から、その人の心を感じ取ることができるのではないのでしょうか。わがままな心は、自分勝手な言葉、行動に、思いやりの心は相手への心配りが伝わる言葉・行動に表れます。しかしこのような心は、生まれた時から、子どもたちに備わっているのでしょうか?

きっと心はお道具箱のようなもので、生まれた時は空っぽで、成長とともに、周囲の人の言葉や行動、表情がお道具箱にたくさん入っていくのだと思います。そして今度は子どもたちが、自分の「心のお道具箱」に入っている言葉や行動を使っていくのだと思います。その繰り返しによって、子どもたちの心が豊かに育まれ、人格が形成されていくのだと思います。周りが使う言葉・行動・表情によって心の育ち方が異なってきます。さらに自分が使う言葉・行動・表情でも、心の表れ方が違ってきます。

子どもの身の周りを、温かさや励ましなどの言葉や行動で包み込むことが、子どもの心にやさしさやがんばる気持ちを育む一番大切なことだと思います。学校でも温かさや励ましなどの言葉と行動であふれる学級作りをめざし、日々取り組みを行っています。周囲の言葉や行動が、一人ひとりの心を大きく育みます。

子どもたちの心のお道具箱を、私たちの言葉・行動・表情で、豊かな心があふれるお道具箱にしていきたいと思います。